

先週の召天者記念礼拝メッセージ(2021年9月19日)

ベン牧師

「神と共にある永遠」 ヨハネの黙示録 21:3~4

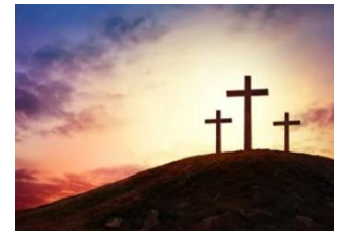
今日は召天者記念礼拝です。また、午後からは教会墓地にて墓前礼拝を行う予定です。墓前礼拝のプログラムを見て、おやっと思われた方がいるかもしれません。結婚式用の用紙が使われています。聖書に、イエス様が再臨された時、私たちクリスチャンはキリストの花嫁となると記されています。今生きている私たちは、この地上で様々な試練や誘惑があります。ですから、誰一人として、私は信仰を堅く持ち続けることができる、絶対に大丈夫と言える人はいないのです。一方、死んで天に帰ったなら、その後で信仰をなくす、救いにもれるということは、これこそ絶対に100%あり得ません。ですから、クリスチャンにとってお葬式は、一般の考え方とは違い、イエス様との婚約式と言えるのです。イエス様の花嫁として確定されたという意味では、結婚式用のプログラムにも納得がいくのではないのでしょうか。

さて、クリスチャンにとって死は決して悲しいものではありません。もちろん、この地上で会うことができない、親しく笑い合い、共に食し、行動することができないということにおいては、とてもさみしさを覚えます。しかし、やがてもう一度、先に召された方々とお会いできるという希望があります。そして、先に主にあって召された方々は、主の救いから漏れるということは絶対にないのです。さみしさを超えた喜び、クリスチャンのお葬式にはそれがあるのです。



聖書は明確に、罪を持ったまま天の御国に行くことはできないと語っています。罪は赦され取り除かれなければならないのです。だからこそ、父なる神様は、ひとり子イエス様をこの地に送り、罪のないお方を私たちの身代わりとして、十字架に

かけ、私たちの罪を全部、十字架の上のイエス様が負ってくださり、死んでくださったのです。イエス様を信じる者は、罪赦されているのです。だからこそ、天の御国には、死も罪もなく、涙や悲しみや労苦も病もないのです。



この地上で、どんなに苦しいことや悲しいことを経験したとしても、御国に行く時、主は私たちの目の涙を拭い去ってくださるということです。そして、賛美と喜びと感謝をもって、主を礼拝できるのです。

この地上に遺された私たちにとっては、思い出と共にさみしさや悲しさはあるでしょう。しかしそれ以上に、信仰の歩みを全うし、今や全き平安の中におられる先人たちに倣う者とさせていただきましょう。やがて、私たちも同じ場所に行くのです。

私たちの信仰が守られるよう、大祭司なる主イエス様は取りなし祈ってくださいます。また、先に召された方々も、私たちのために祈ってくれていることでしょう。

罪が赦されていないければ御国に行くことはできないと、先ほど語りました。それは同時に、罪を持ったままでは、先に天に帰られた愛する方々と会うことができないということの意味します。

召天者記念礼拝は、先に天に帰られた方々の信仰を思い、天への希望を新たにすると共に、自らの信仰を点検し、また、救いを明確にする時でもあるのです。